

専門部会での審議結果報告

1. 秋田都市圏の道路交通の現状と課題
2. 国道7号 秋田南拡幅の現状と課題
3. 専門部会における審議結果

令和4年2月15日

1. 秋田都市圏の道路交通の現状と課題

1. 秋田都市圏の道路交通の現状と課題（交通需要（物流））

- ◆ 秋田都市圏内の秋田自動車道、国道7号、国道13号は他路線に比べ大型車混入率が高く、物流需要を担っている路線となっているが、国道7号や国道13号上では、主要渋滞箇所が点在しており、円滑な物流を阻害。
- ◆ 道路種別にみると、国道7号は延長が約10%に対し走行台キロは約21%を担っている。さらに物流を担う大型車の走行台キロでは約23%を担っており、物流業者からは国道7号の重要性が指摘されている。

□ 秋田都市圏の交通量

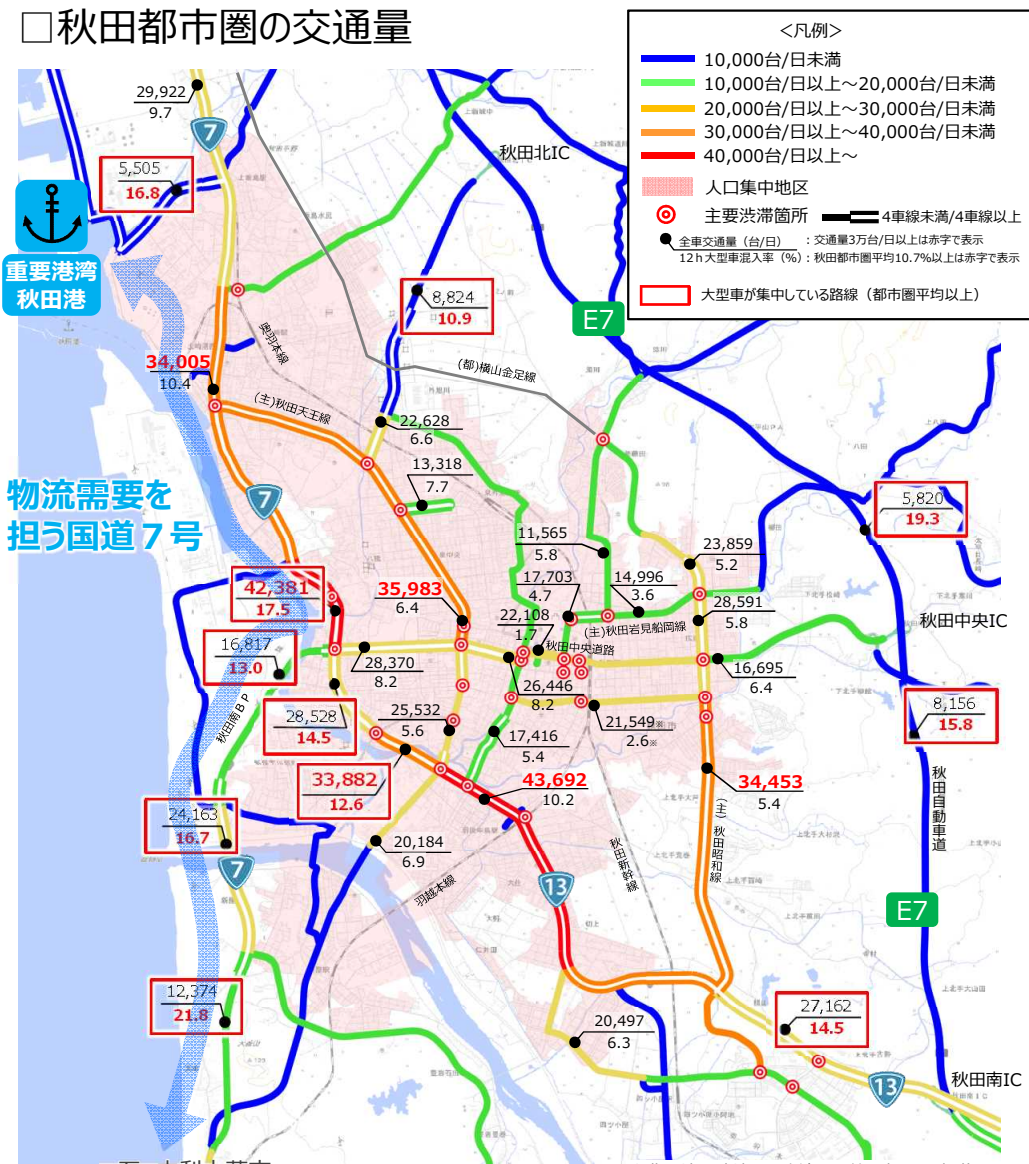
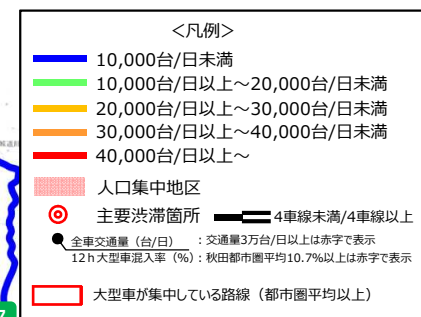
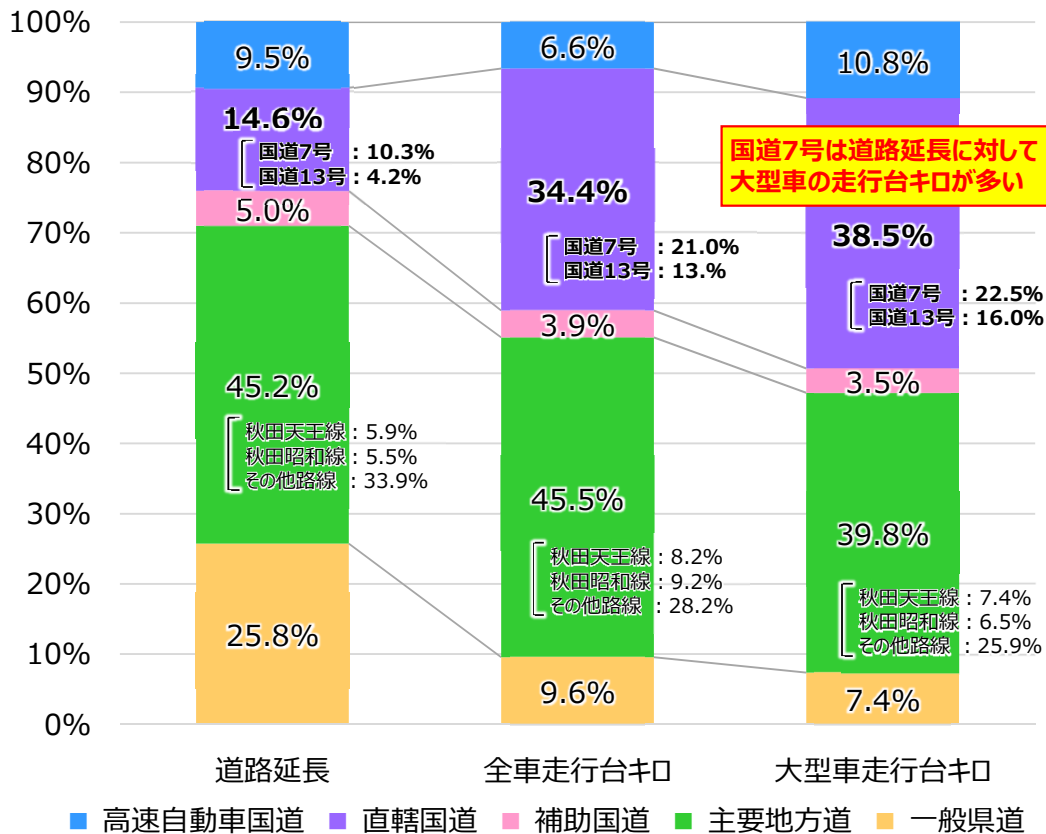


図1 秋田都市圏中心部の交通量



□ 道路延長と走行台キロの道路種別割合



資料：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査
 ※秋田市+潟上市を対象に集計

※小数点四捨五入のため合計が一致しない場合がある

図2 秋田都市圏の道路延長と走行台キロの道路種別割合

【大手物流業者の声】

- 大きな道路をメインルートとしているため**国道7号は重要な路線**。
- **渋滞により物流に遅延が発生してしまうのが課題**。

R2.10ヒアリング結果



1. 秋田都市圏の道路交通の現状と課題（交通渋滞）

- ◆ 朝ピーク時の速度を見ると、人口集中地区内の国道7号や国道13号、(主)秋田天王線など広範囲で速度が低下。
- ◆ 都市圏への主な流入経路となっている路線のうち国道7号や国道13号、(主)秋田天王線では混雑が発生。各方面の断面別でみると南断面からの交通で混雑度が最も高くなり、交通容量不足により混雑が発生し、大型車混入率も最も高い状況。
- ◆ 南側断面のなかでは国道7号で混雑度が最も高く、大型車も集中している。

□ 秋田都市圏の朝ピーク時における速度状況

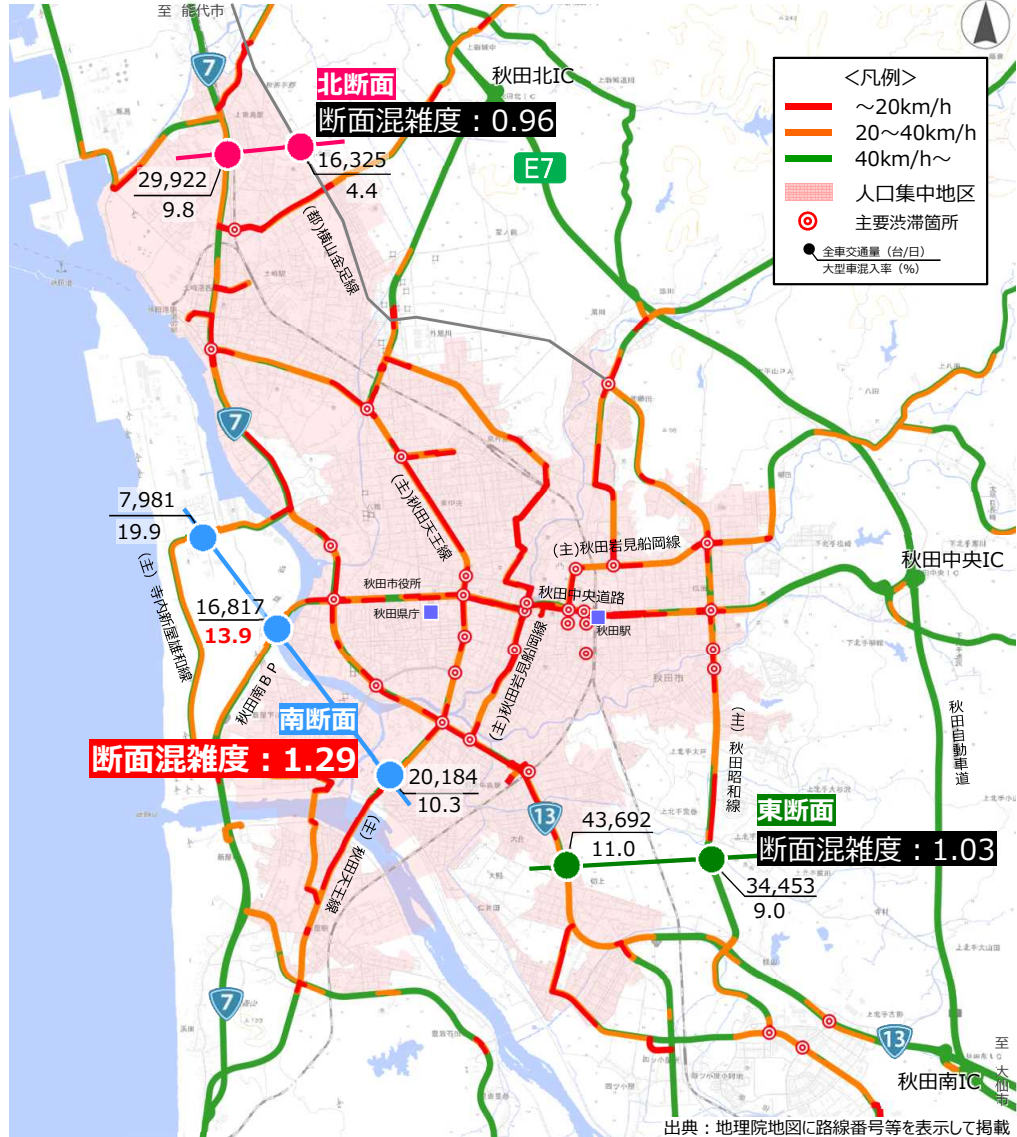


図1 秋田都市圏の朝ピーク時における速度状況

□ 都市圏へ流入する断面（路線）毎の混雑状況と大型車交通量

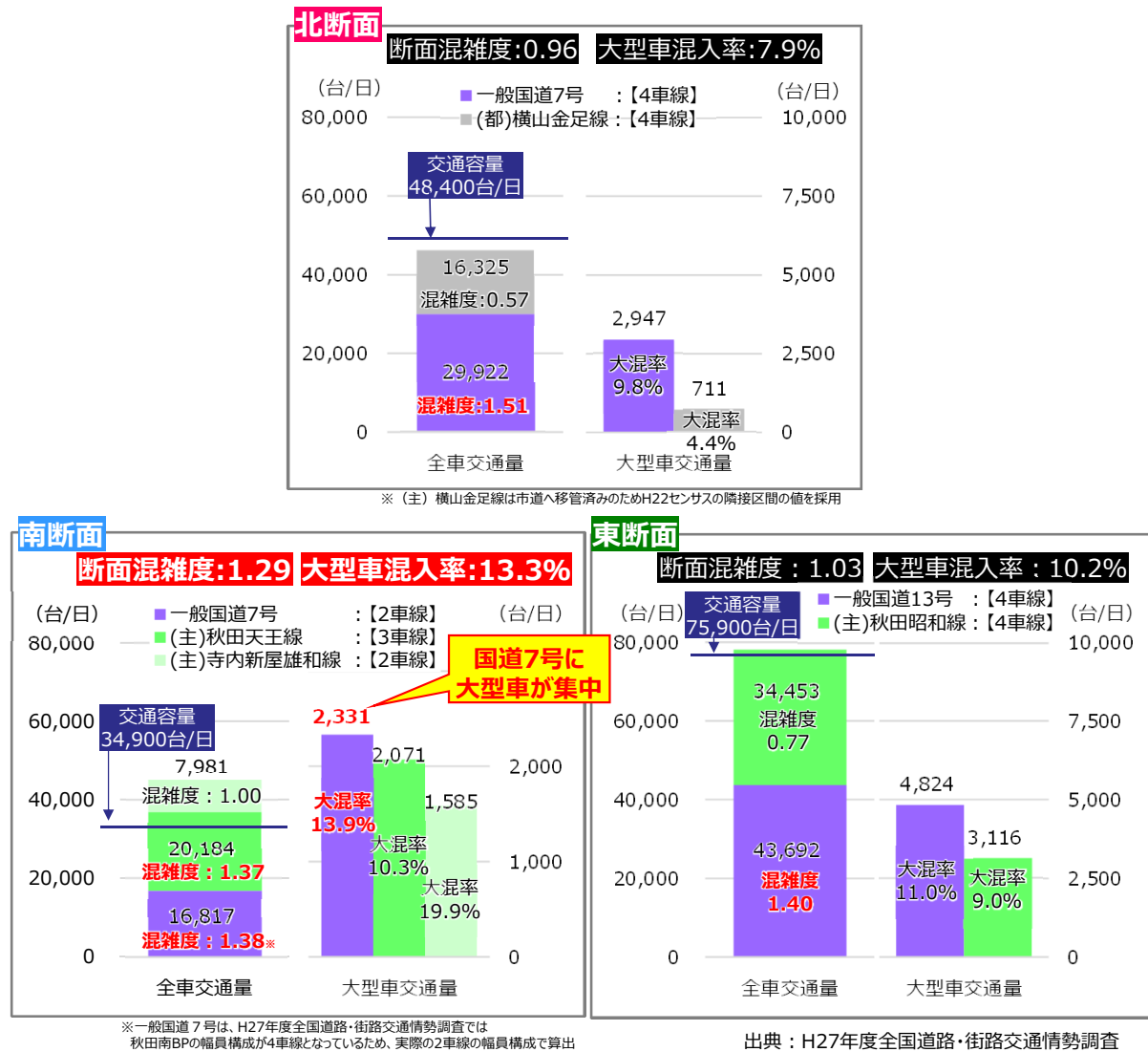
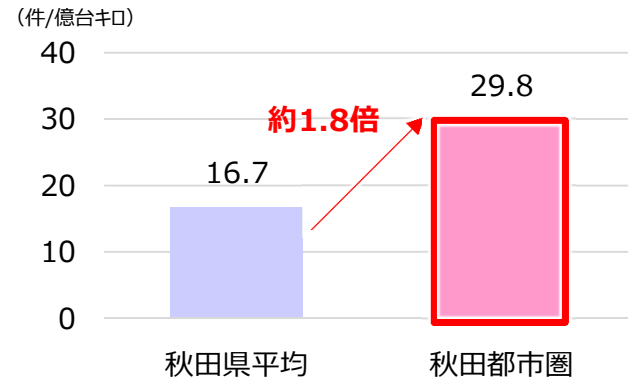


図2 都市圏へ流入する断面（路線）毎の混雑状況と大型車交通量

1. 秋田都市圏の道路交通の現状と課題（交通事故）

- ◆ 秋田都市圏の死傷事故率は県全体の約1.8倍。都市圏全体での死亡事故21件のうち半数近くが国道7号で発生。
- ◆ 死亡事故が多く発生している国道7号は死傷事故件数も多く、事故類型をみると混雑に起因する追突事故が多い傾向。
- ◆ 混雑度、大型車混入率の高い南側断面（3路線）の死傷事故率を見ると、国道7号臨海十字路交差点が692.4件/億台キロと突出して高い。

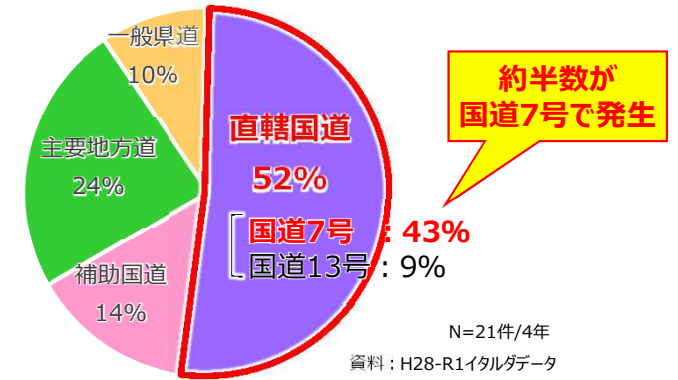
□ 県全体と秋田都市圏の死傷事故率



資料：H28-R1イタルデータ・H27全国道路・街路交通情勢調査
※県平均にNEXCO東日本管理区間は含まない

図1 県全体と秋田都市圏の死傷事故率

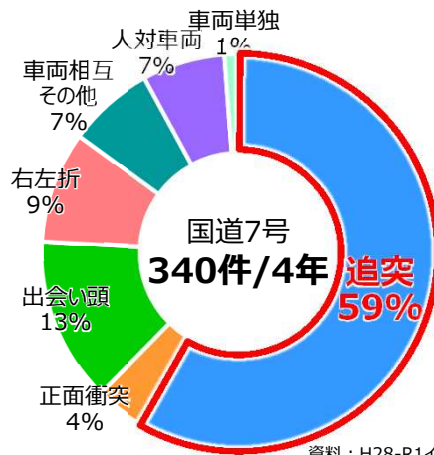
□ 秋田都市圏の死亡事故発生状況



資料：H28-R1イタルデータ
※秋田都市圏を対象に集計

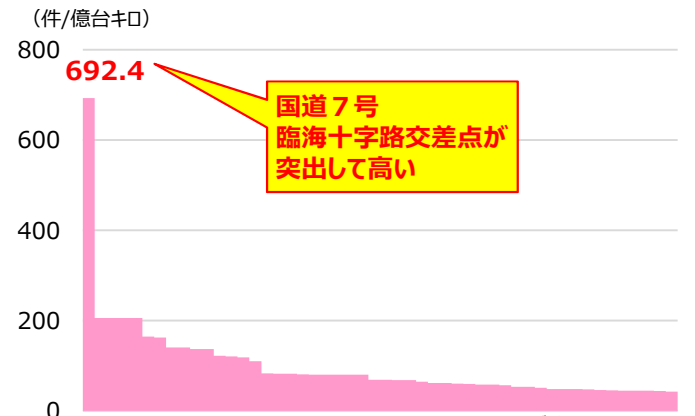
図2 秋田都市圏の死亡事故発生状況

□ 国道7号（秋田都市圏内）の事故類型と死傷事故率



資料：H28-R1イタルデータ
※秋田都市圏を対象に集計

図3 秋田都市圏 国道7号の事故類型



資料：H28-R1イタルデータ
イタルダ区間毎の死傷事故率（上位50位）を表示

図4 秋田都市圏 国道7号の死傷事故率の状況



【物流業者の声】
 ・国道7号秋田南バイパスにおいて、4車線から2車線になる箇所、
強引な入り込み・追い越しがあり
危険を感じている。 R2.9ヒアリング結果



1. 秋田都市圏の道路交通の現状と課題（防災）

- ◆ 秋田都市圏では、近年大雨や大雪による道路・交通機関への影響（通行止め等）が頻発。平常時・災害時を問わない安定的な輸送確保が求められる。
- ◆ 直近でも令和3年1月の大雪時に、秋田南バイパスでスタック車両が発生し通行不能状態となった。また、通勤時間帯に猛吹雪となり、渋滞や事故が多発し、国道7号を利用した物流に支障。

□ 秋田市における近年の災害等発生状況（道路被害関連）

年月	種別	概要
H29.7	大雨	床上浸水154棟、床下浸水357棟、 道路冠水128箇所 、土砂崩れ213箇所の被害が発生。
H30.5	大雨	床上浸水146棟、床下浸水232棟、 道路冠水 81箇所 、土砂崩れ50箇所の被害が発生。
R3.1	大雪	複数回の大雪により、事故による通行止めや渋滞が発生し交通機関等へ多大な影響が発生。 国道7号秋田南バイパスではスタックによる交通障害が発生。 市内では通勤時間帯に猛吹雪となり、渋滞や事故が多発。

出典：秋田市地域防災計画（第20次修正）※資料3-2 秋田市災害年表にR2年度大雪を追加



写真1 国道7号秋田南バイパス大雪時の除雪状況



写真2 国道7号秋田南バイパス大雪による車両滞留状況

【大手物流業者の声】

・R3.1月の大雪時、**国道7号秋田南バイパス**を利用し由利本荘市へ輸送する際に、**渋滞に巻き込まれ**物流センターに戻った。

※R3.1ヒアリング結果



□ 秋田市中心部の主要幹線道路の通行止め発生状況

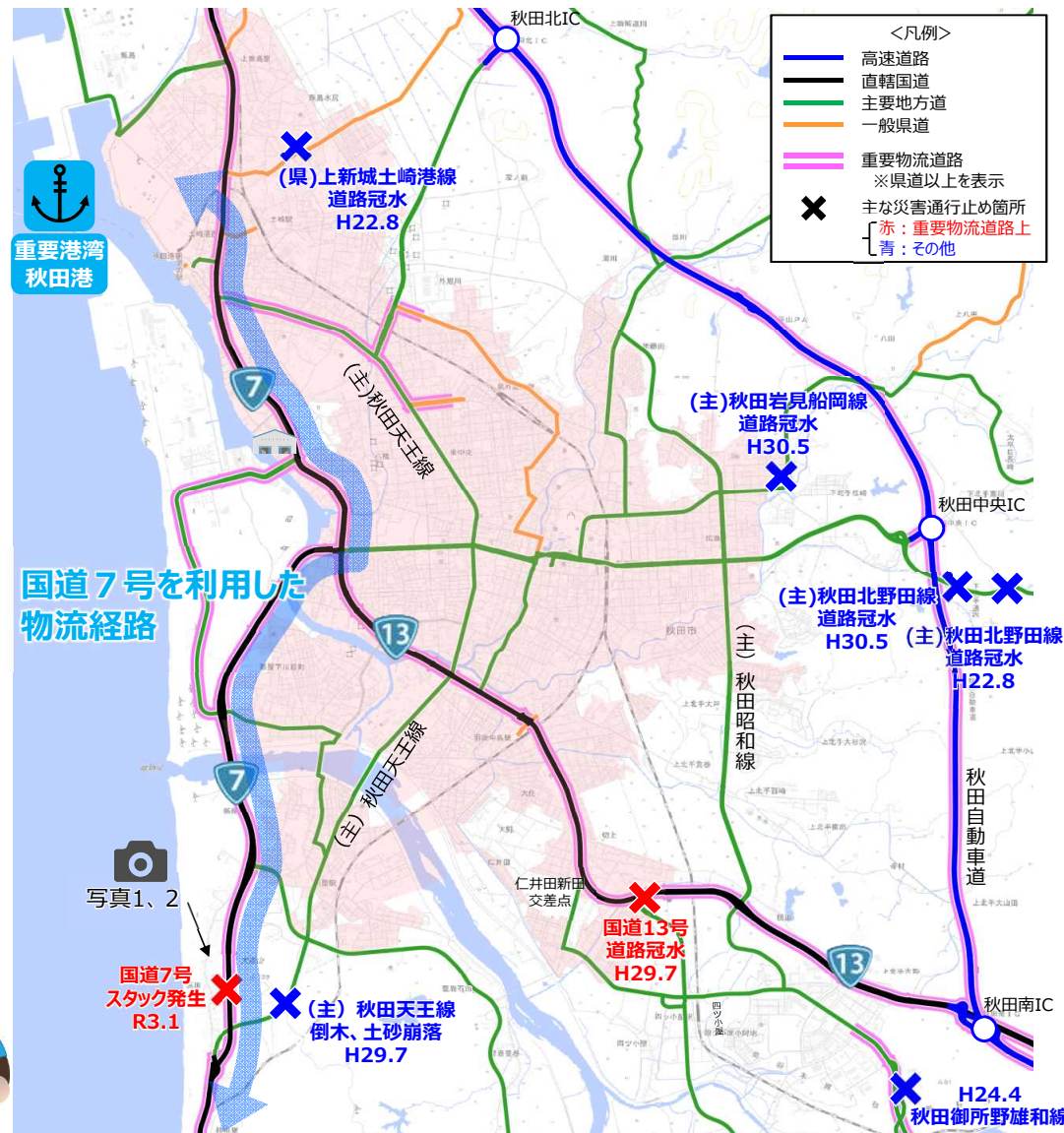


図1 秋田市中心部での主な通行止め箇所

出典：地理院地図に路線番号等を表示して掲載

1. 秋田都市圏の道路交通の現状と課題（まとめ）

- ◆ 秋田都市圏内では、国道7号の南側（秋田市下浜～臨海十字路交差点）で、物流、渋滞、事故、防災などの道路交通課題を最も多く抱えている。
- ◆ 国道7号の南側は、2車線区間となっており幹線道路として機能強化が必要。

	地域の将来像	現況
交通需要(物流)	<ul style="list-style-type: none"> 県内外の円滑な交流連携の強化、県土の発展に資する骨格の形成。 【秋田県道路整備計画(R2.3)】 平常時・災害時を問わず、主要都市や空港・港湾・工業団地等の物流拠点間を円滑かつ確実に結ぶ広域道路ネットワークを構築。 【秋田県新広域道路交通ビジョン(R3.6)】 	<ul style="list-style-type: none"> 秋田道、国道7号、国道13号は大型車混入率が高く、物流需要を担う。 秋田都市圏において、国道7号は物流を担う最も重要な路線。 物流業者からは国道7号の重要性が指摘されている。
交通渋滞	<ul style="list-style-type: none"> 市街地への通過交通の流入回避による混雑緩和を図る。 【第3次秋田市総合交通戦略(R3.3)】 市街地に流入する通過交通を迂回・誘導する道路網（外周部環状道路、市街地環状道路、都心環状道路）の形成を進めます 【第7次秋田市総合都市計画(R3.6)】 	<ul style="list-style-type: none"> 国道7号や国道13号、(主)秋田天王線など広範囲で速度が低下。 断面混雑度は南断面が最も高い。なかでも国道7号が最も混雑、大型車混入率も高い。
交通事故	<ul style="list-style-type: none"> 移動しやすい道路網の整備を進め、安全な道路環境の確保、バスの走行性向上および市街地への通過交通の流入回避による混雑緩和を図ることで、都心部と地域中心間を結び、人や物の移動を支える自動車交通の利便性向上を目指す。 【第3次秋田市総合交通戦略(R3.3)】 	<ul style="list-style-type: none"> 秋田都市圏の死傷事故率は県全体の約1.8倍。死亡事故の半数近くが国道7号で発生。 国道7号では、混雑に起因する追突などの事故が多発。 国道13号と接続する国道7号の臨海十字路交差点の死傷事故率が都市圏内でも高い位置にある。
防災	<ul style="list-style-type: none"> 道路の強靱化の推進 災害時の交通移動を確保出来る道路 【秋田県道路整備計画(R2.3)】 【参考 大雪時の道路交通確保対策 中間とりまとめ (R3.3改定)】 高速道路の暫定2車線区間や主要国道の4車線化、付加車線等を通じ、大雪の観点からもネットワークを強化 	<ul style="list-style-type: none"> H29年7月豪雨では国道13号が道路冠水により一部通行止めとなった。 また、R3年1月の大雪では国道7号秋田南バイパス等でスタック車両が発生し通行不能状態となるなど、日本海沿岸の物流を担う重要物流道路として課題が残る。

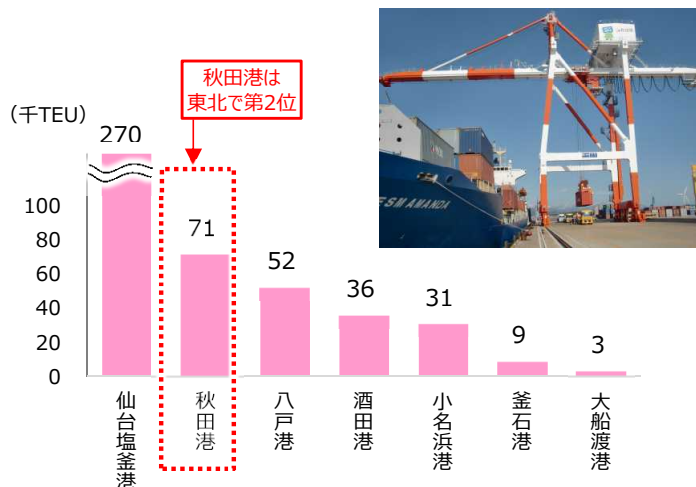
主な幹線道路における課題		
国道7号	国道13号	秋田天王線
○	△	—
○	△	△
○	△	—
○	○	—

○：課題に該当する、△：課題に一部該当する、—：課題に該当しない

2. 国道7号 秋田南拡幅の現状と課題

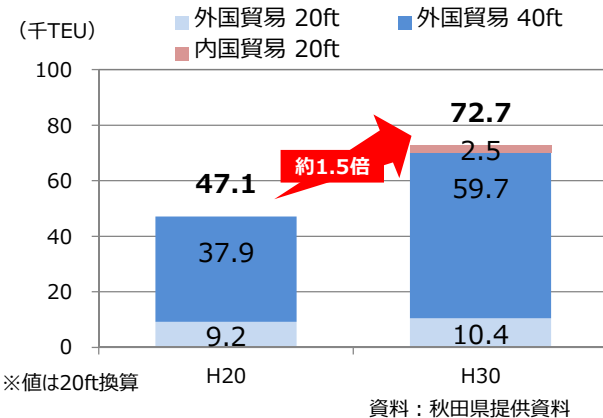
2. 国道7号 秋田南拡幅の現状と課題（物流・産業）

- ◆ 秋田港は、ガントリークレーン整備等の機能強化が図られており、東北で第2位の取り扱い量。コンテナ貨物取扱量は10年間で約1.5倍に増加。
- ◆ 秋田港から本荘由利地域へのコンテナ輸送量は化学工業品を中心に増加傾向（10年間で約3倍）であり、主に国道7号秋田南バイパスを利用。
- ◆ また、本荘由利地域は製造品出荷額等が増加傾向で物流需要が高まっており、国道7号秋田南バイパスの重要性が高まっている。



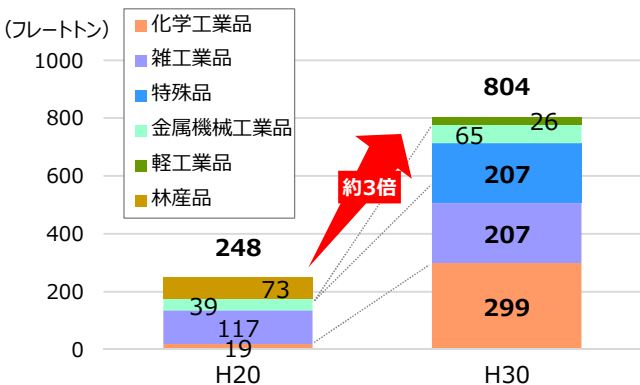
資料：港湾別コンテナ取扱量(TEU)ランキング(2020年速報値)

図1 東北の港湾別コンテナ取扱量



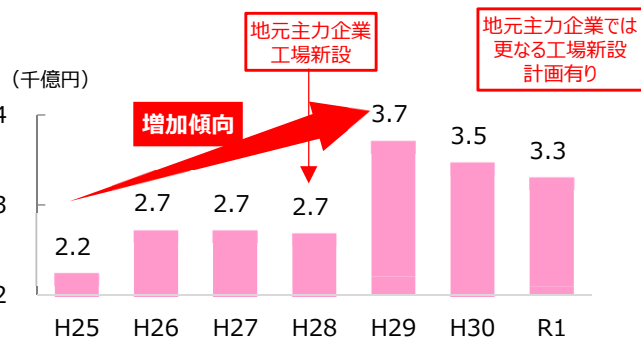
資料：秋田県提供資料

図2 秋田港のコンテナ貨物取扱量



資料：コンテナ流動調査

図3 本荘由利地域～秋田港へのコンテナ輸送量



資料：工業統計、経済センサス

図4 本荘由利地域の製造品出荷額等の推移



出典：国土地理院地図に経路分散を表示して掲載
資料：商用車プローブデータによる経路分散集計 (R1.10)
※商用車（積載量4t以上の事業用トラック）

図5 秋田港発着の貨物車両の主な利用経路

2. 国道7号 秋田南拡幅の現状と課題（交通渋滞）

- ◆ 国道7号は日本海側を南北に縦断する主要幹線道路かつ周辺市町村と秋田都市圏を結ぶ重要な路線。
- ◆ しかしながら、4車線区間に挟まれる2車線区間である秋田南バイパスがボトルネックとなっており、朝ピーク時には由利本荘市方面からの交通が集中し臨海十字路交差点（主要渋滞箇所）を起点とした渋滞が発生。
- ◆ また、臨海十字路交差点北側では、秋田港方面から南進する交通が右折レーン(2車線)の右側車線に集中し、著しい渋滞が発生している状況。

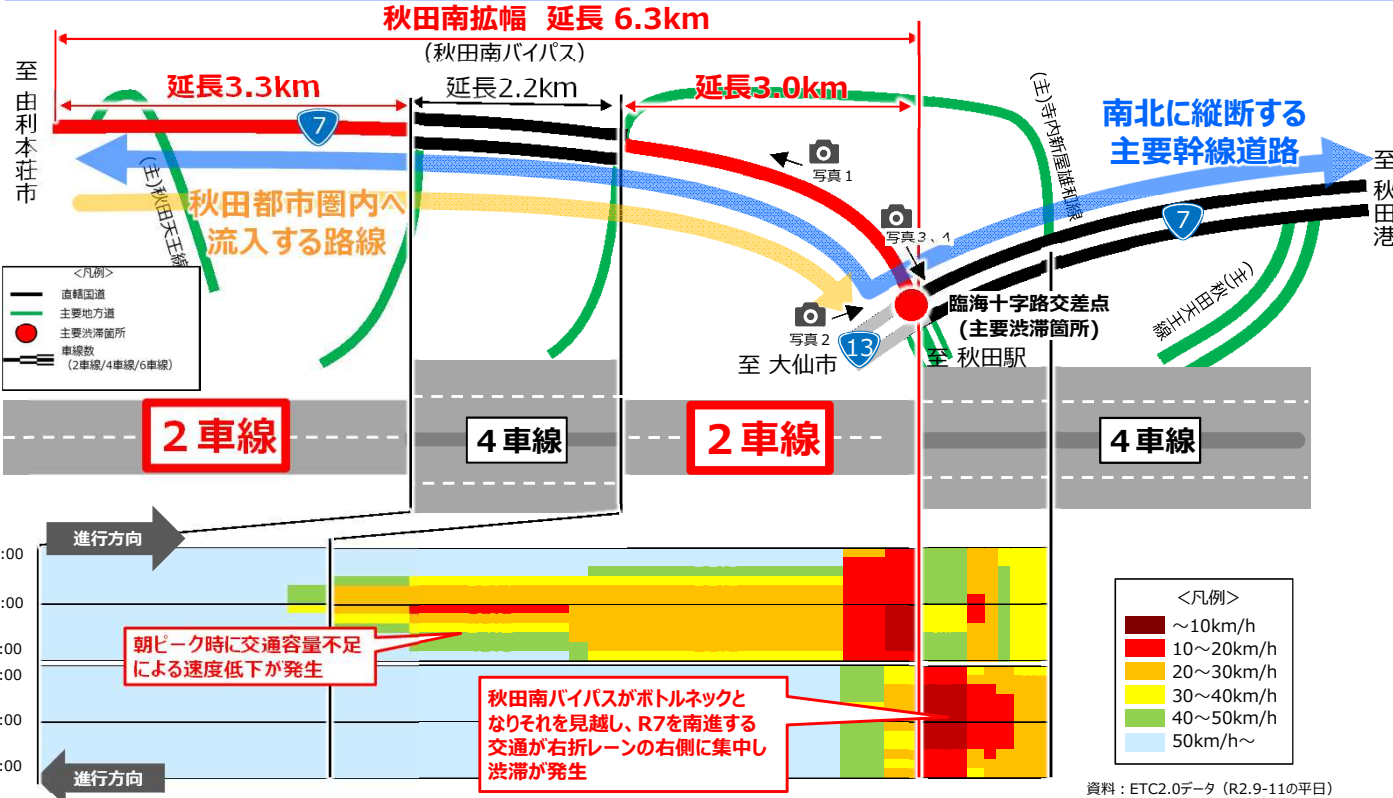


図1 朝ピーク時間帯の速度低下状況



写真2 臨海十字路交差点北側の状況

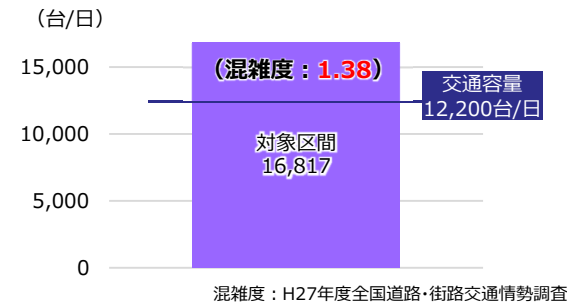


図2 対象区間の交通量と交通容量



写真1 秋田南バイパスの渋滞状況



写真3・4 臨海十字路交差点西側の状況

2. 国道7号 秋田南拡幅の現状と課題（交通事故）

- ◆ 対象区間の平均死傷事故率は、単路・交差点部ともに県平均を上回っている。事故による通行止め発生箇所が点在しており、H30.6には死亡事故も発生。事故類型をみると混雑に起因する「追突」が約6割（秋田県全体の約1.3倍）。
- ◆ 終点部に当たる「臨海十字路交差点」では追突や右左折事故が多発。死傷事故率は東北管内の国道7号で最も高く、事故危険箇所指定。

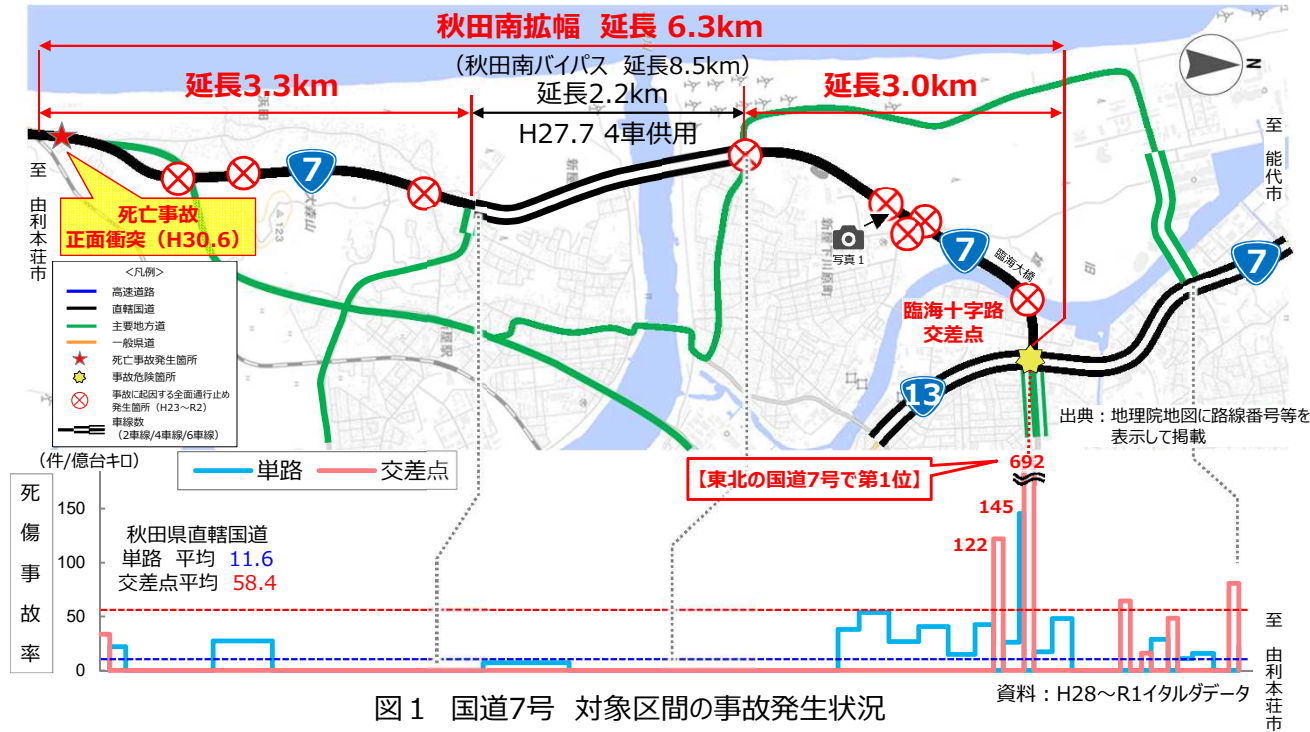


図1 国道7号 対象区間の事故発生状況

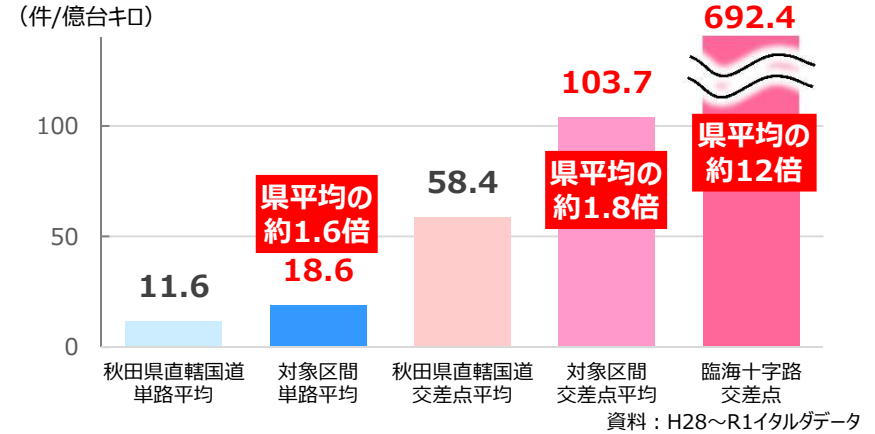


図2 秋田南拡幅区間の死傷事故率

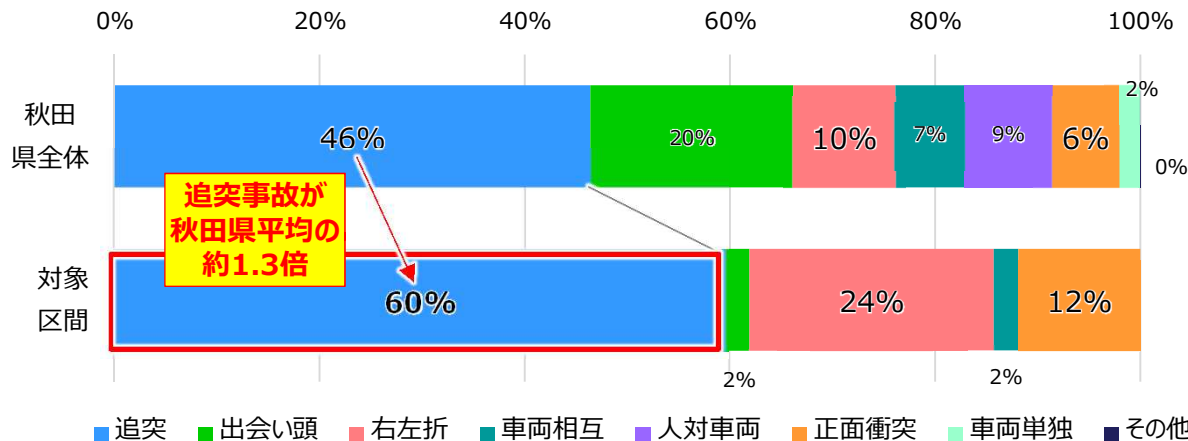


図3 秋田県全体と対象区間の事故類型比較



写真1 対象区間での事故発生状況

2. 国道7号 秋田南拡幅の現状と課題（防災）

- ◆ 令和3年1月には、日本海側を中心に猛吹雪や大雪となったことで、日本海沿岸の主要幹線道路である国道7号において交通障害が発生。
- ◆ 対象区間は2車線であり、スタック車両の発生により除雪作業の遅れが生じ、最大約3.8kmの渋滞が発生。主要幹線道路の交通機能に支障を来たした。
- ◆ 大雪時のスタック車両発生時において、対象区間での大規模な車両滞留を回避するため4車線化による機能強化が必要。

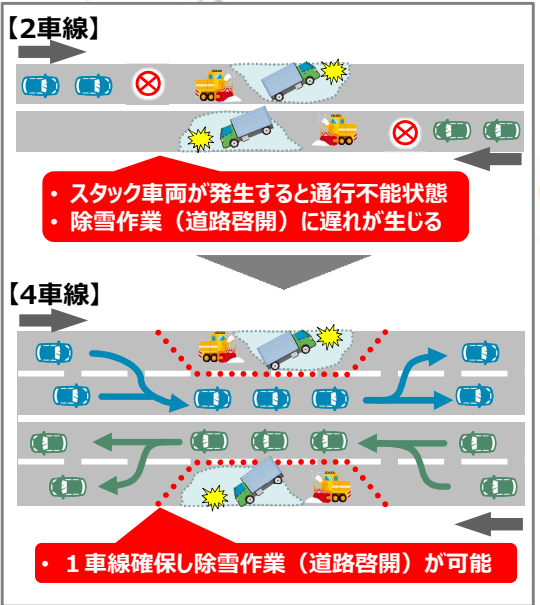
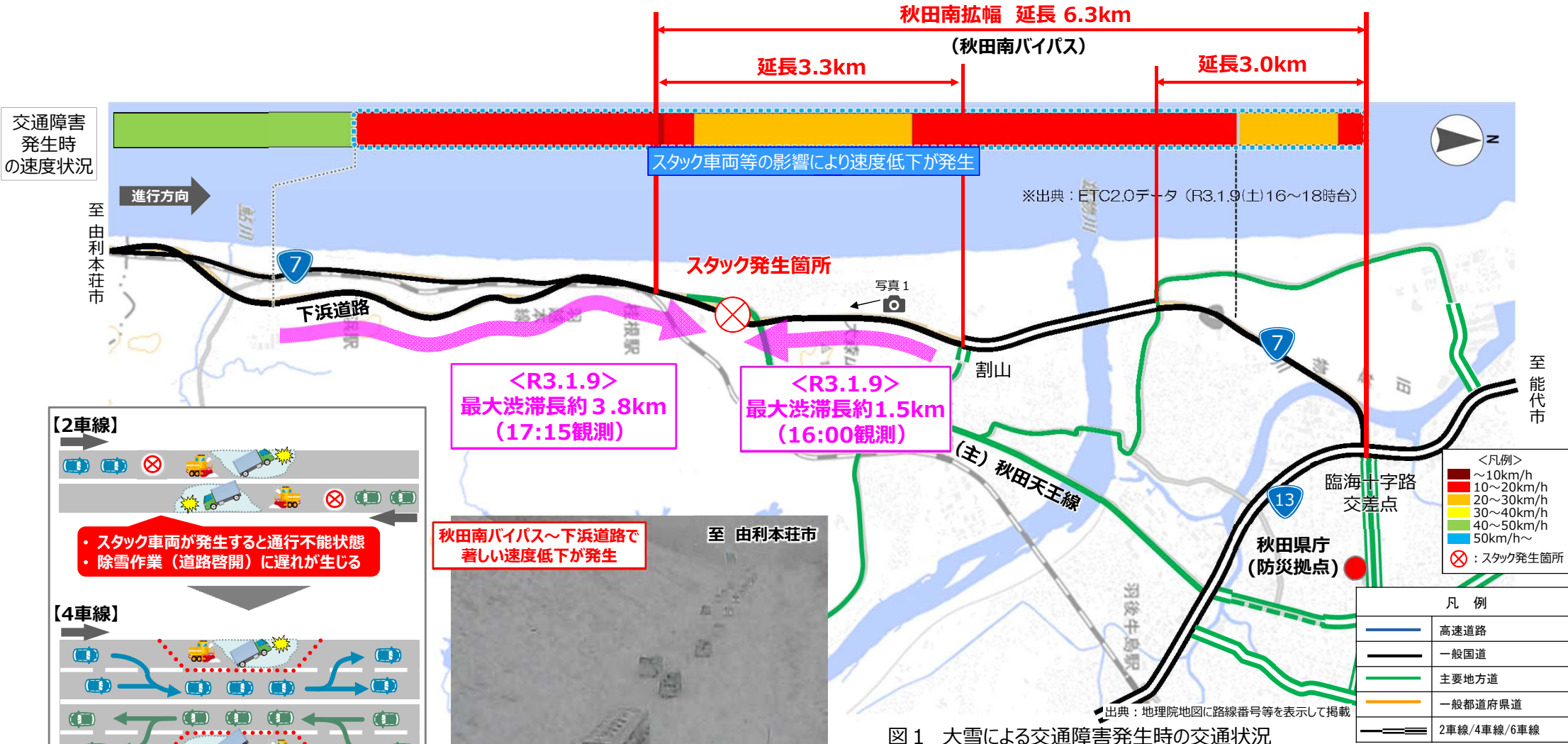


図2 2車線区間と4車線区間の大雪時の道路啓開イメージ



写真1 秋田南バイパスでの車両滞留状況

図1 大雪による交通障害発生時の交通状況

【秋田市内の大手コンビニ製品を取り扱う物流センターの声】

- ・国道7号を利用し由利本荘市の店舗へ配送しようとした際に、秋田南バイパスの割山で大雪による渋滞に巻き込まれ物流センターに戻った。
- ・大雪の影響により、各エリアへの商品配送に遅延が生じた。

※R3.1ヒアリング結果



2. 国道7号 秋田南拡幅の現状と課題

	地域の将来計画での整理	現状と課題
物流・産業	<ul style="list-style-type: none"> 港湾や空港へのアクセス強化、産業・物流拠点のポテンシャル向上 【秋田県道路整備計画(R2.3)】 平常時・災害時を問わず、主要都市や物流拠点間を円滑かつ確実に結ぶ広域道路ネットワークを構築 【秋田県新広域道路交通ビジョン(R3.6)】 	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞により円滑な物流活動を阻害 ⇒秋田港に関連した物流交通において国道7号は重要な路線。
交通渋滞	<ul style="list-style-type: none"> 渋滞緩和のための道路整備を推進 【第3次秋田市総合交通戦略(R3.3)】 	<ul style="list-style-type: none"> 交通容量が不足 ⇒2車線の交通容量を上回る交通が集中することや車線の絞り込みによる渋滞や混雑が発生。
交通事故	<ul style="list-style-type: none"> 安全な道路環境の確保 【第3次秋田市総合交通戦略(R3.3)】 	<ul style="list-style-type: none"> 追突事故の多発 ⇒速度低下に起因する追突事故が多発。交通事故による通行止めが発生。
防災	<ul style="list-style-type: none"> 道路の強靱化の推進_災害時の交通移動を確保出来る道路 【秋田県道路整備計画(R2.3)】 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に交通機能が低下 ⇒2車線であるため、スタック車両の発生により除雪作業の遅れが生じ、渋滞が発生。主要幹線道路の交通機能に支障。



3. 専門部会における審議結果

3. 専門部会における審議結果

事務局より、秋田都市圏の道路交通、国道7号 秋田南拡幅の現状と課題等について説明を実施。

各委員より出された主な意見、審議結果は以下のとおり

【主な意見】

- 物流の観点からも4車線化を早期に進めて頂きたい。
- 2車線区間は交通事故の発生など、通行止のリスクが高く、定時性確保の面から課題がある。また、4車線から2車線への絞り込み箇所では事故が起きやすいため、4車線化により安全性向上も期待でき、秋田南拡幅の4車線化の必要性を感じる。
- 秋田南拡幅区間での課題について、共通の認識を持っている。4車線化済区間前後の2車線区間の4車線化を早期に進めていただきたい。
- 秋田南拡幅区間の速達性、定時性を求めている企業の声を把握すること。

【審議結果】

上記を踏まえて、幹線道路協議会へ報告することとされた。